

## 駒ヶ根市文化財

名称	駒ヶ根市の井月句碑
種別	歴史資料
所在地	市内各地
説明	<p>漂泊の俳人井上井月(せいげつ)(本名:克三または勝蔵)は文政 5 年(1822)新潟県長岡の武家に生れた。</p> <p>幼少期は長岡藩の崇徳館で学び、18 歳の天保 10 年(1839)ころ江戸へ出て江戸屋敷での勤めながら和漢・書道・武道に励んだ。</p> <p>特に俳句では芭蕉を尊敬し傾倒したものと思われる。いつごろ藩から離れたかは定かではないが以後芭蕉の足跡をたどりながら俳句などの修業で年月を過ごしたことは間違いないが詳しいことは不明である。</p> <p>記録では駒ヶ根市中沢の田村梅月宅(屋号、田丸屋で寺子屋の先生)に現れたのが安政 5 年(1858)37 歳の時であった。この時の姿は武士風であったと伝えられている。</p> <p>その後、明治 20 年(1887)66 歳で伊那市美すずの塩原家で没するまで上伊那を離れることなく、俳句と書道を各地の子弟を中心に教えながら回遊した。</p> <p>その書については芥川龍之介をして「入神と称するをも妨げない」と云わしめた。読んだ句は千八百余を数え、遺墨は市内の各家にもある。駒ヶ根市立博物館にも保管されている。維新前後の激動の時代を俳句一筋に生き、正岡子規に先んじて新しい俳句と蕉風を上伊那に広めた。</p> <p>そして人情豊かな伊那谷の人々と共に生活の喜びや自然の恵みに感謝した俳句を多く残した。井月没後、句碑が上伊那に六十余現在までに建てられている。井月が及ぼした文化的影響は計り知れず、井月を慕うひとたちは今も多い。</p> <p>市内には、9 基の井月の句碑が建てられている。</p>



「舟を呼ぶこゑは流れて揚雲雀」

東伊那 駒見大橋東(平成 11 年 11 月建立)



「駒ヶ根に日和定めて稲の花」

中沢 蔵澤寺境内(昭和 62 年 5 月建立)